

市内バスネットワークに関する奈良交通株式会社の申し入れについて (調整状況と今後の対応方針案)

1. 申し入れに対する生駒市の基本的な考え方

9月27日に開催した本協議会において、奈良交通株式会社（以下、奈良交通）からの申し入れで示された市内5路線の廃止・見直しの提案（以下、再編案）に対し、生駒市では以下のような考え方を基本として対応してきました。

<奈良交通の再編案に対する生駒市の基本的な考え方>

- 奈良交通のバスを含む公共交通機関は、市民の通学・通勤や病院、買い物などの日常生活はもちろん、健康で充実した暮らしを実現するために欠かせない
- 一方、コロナ禍の影響（観光客や通勤・通学利用者の減少、感染対策コストの増大等）や昨今のエネルギー価格高騰などにより、奈良交通を含む公共交通事業者等への影響は大変大きく、何らかの支援が必要な状況
(本市では、これまで様々な機会を捉え、奈良交通を含む公共交通機関に対する支援を実施しており、12月議会に上程している補正予算案の中でも財政支援を盛り込んでいます。)
- 再編案の内容は、市民への影響があまりにも大きく、このまま受け入れることは難しい。市民や利用者の声も丁寧に聞いたうえで、再編案の内容を抜本的に見直していただきたい
- コロナ収束後のバス利用状況の回復状況や、経営が厳しい公共交通に対する国の再生支援策の検討が始まっており、その結果を見極める必要があることから、性急な判断をせずに慎重かつ丁寧に時間をかけて判断していただきたい
- 今後の持続可能な公共交通機関の運営のためには、事業者と行政との協力だけでなく、市民による利用促進が不可欠。事業者、行政、市民の三位一体による利用促進策の具体化と実施に向けて取り組んでいく。

2. 申し入れに対する対応方針案の整理

1に述べた本市の基本的な考え方に基づき、市民や利用者へのアンケートを実施して意見をまとめながら、奈良交通と具体的な調整を重ねた結果、再編案に対する今後の対応方針案について、以下のとおり両者で整理しました。

- 市からの財政支援がなされてきたこと、国による公共交通支援策の検討が進んでいること、コロナ禍後の利用客の動向などを見極めるべきであることなどを踏まえ、奈良交通は現行のバスネットワークを一定期間継続する。
(高の原高山線については、利用者の利便性に十分配慮した形で再編を実施する)
- これは、再編案を単に一定期間先延ばしするものではなく、今回実施したアンケート調査や来年1月に開催を予定している市民説明会での意見等も踏まえ、9月に示された再編案の内容に拘らず、時間をかけて協議を行う。
- バスネットワークの維持、再編については、市民の利便性に最大限配慮しつつ、収支均衡を目指し、持続可能なバス運営ができるよう事業者・行政・利用者が協力して建設的に議論を重ねる。
- 以上のような方針の下、より良いバスネットワークの提案が具体化できるよう、事業者・行政・市民による三位一体となって連携協力していくことが不可欠。
 - 奈良交通は対象路線の利用状況調査のほか、収支改善方策を検討・実施し、利用者の利便性が最大限確保されるネットワーク案を提案する。また、利用促進策を検討・実施する。
 - 生駒市は奈良交通や市民と協力してバス利用促進につながる取り組みを検討・実施するほか、奈良交通による利用者の利便性が最大限確保されるネットワークの検討に協力し、必要な支援を検討する。
 - 市民は、バスネットワークの維持、再編に対するご意見をいただくほか、バスをはじめとする公共交通機関の利用促進に向けた取組をする。

3. 今後の対応方針案等について

NO	路線名	要望や意見（まとめ）等	対応方針（案）	今後のスケジュール（案）
1	ひかりが丘住宅線	<p>■あすか野自治会外 6 自治会から、市長、協議会会長宛て要望書提出（9月21日付）</p> <p><内容></p> <p>住民への説明会の開催、もしくは他の方法による十分な情報周知と意見集約の実施、また、その結果をふまえて協議会での協議</p> <p>■あすか野自治会から市長、協議会会長宛て要望書提出（11月21日付）</p> <p><内容></p> <p>協議会での奈良交通バスの現状の運行継続について決定、現状の運行継続に対する生駒市の支援、また、住民への説明会の開催</p> <p>■あすか野自治会から、市長、協議会会長宛て要望書提出（12月6日付）</p> <p><内容></p> <p>現状便数の維持、生駒駅までの運行維持、通勤通学需要の必要、バス利用者増加に向けた積極的な政策の推進、あすか野を含めた街づくりの基盤としてのバスの重要性</p> <p>■アンケート調査による自由意見 1,133 件</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許返納しているから困る、今後免許返納したら困る（再掲） ・減便してもいいから残してほしい（再掲） ・廃止するなら代替手段（コミバス等）を考えてほしい（再掲） ・買い物、通院するのに困る（再掲） <p>■その他意見 54 件</p>	<p>・現行の運行を一定期間継続する。その間、路線の収支均衡を目指すこととし、利用促進に取り組むとともに、並行して利用状況を確認しながら収支改善案について検討する。</p> <p>※収支均衡に必要な1便当たりごとの利用者数 25.8人/便（現行18.2人/便）</p> <p>・検討に当たっては、収支均衡に向けた具体策の検討が最優先事項となるが、仮に収支均衡が困難となる場合は、要望や意見を踏まえて利便性を確保しながら一定便数を維持するための方策、あすか野団地口バス停の維持、生駒駅までの路線をどのように維持するか等について検討する。</p> <p>※地元自治会から、バス利用者増加に向けた積極的な施策の推進に向け、地元自治会、奈良交通株、市の三者の協議の場を設けることが要望されていることを受け、設置に向けた調整を行う。</p>	<p>R4.12 対応方針案の検討</p> <p>R5.1 説明会開催</p> <p>R5.4 現行での運行継続</p> <p>～R6.3</p> <p>※奈良交通株の申し入れによる協議時期 R6.4以降の運行について、R6.2までを目途に協議</p>
2	生駒ニュータウン線	<p>■アンケート調査による自由意見 137 件</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許返納しているから困る、今後免許返納したら困る（再掲） ・小型バスにしてもいいから減便しないでほしい（再掲） ・通勤、通学時間帯は残してほしい（再掲） ・買い物、通院するのに困る（再掲） 	<p>・現行の運行を一定期間継続する。その間、路線の収支均衡を目指すこととし、利用促進に取り組むとともに、並行して利用状況を確認しながら収支改善案について検討する。</p> <p>※収支均衡に必要な1便当たりごとの利用者数 17.3人/便（現行12.1人/便）</p> <p>・検討に当たっては、収支均衡に向けた具体策の検討が最優先事項となるが、仮に収支均衡が困難となる場合は、要望や意見を踏まえて利便性を確保しながら一定便数を維持するための方策等について検討する。</p>	<p>R4.12 対応方針案の検討</p> <p>R5.1 説明会開催</p> <p>R5.4 現行での運行継続</p> <p>～R6.3</p> <p>※奈良交通株の申し入れによる協議時期 R6.4以降の運行について、R6.2までを目途に協議</p>
3	北田原線	<p>■アンケート調査による自由意見 137 件</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許返納しているから困る、今後免許返納したら困る（再掲） ・小型バスにしてもいいから減便しないでほしい（再掲） ・通勤、通学時間帯は残してほしい（再掲） ・買い物、通院するのに困る（再掲） 	<p>・現行の運行を一定期間継続する。その間、路線の収支均衡を目指すこととし、利用促進に取り組むとともに、並行して利用状況を確認しながら収支改善案について検討する。</p> <p>※収支均衡に必要な1便当たりごとの利用者数 17.3人/便（現行12.1人/便）</p> <p>・検討に当たっては、収支均衡に向けた具体策の検討が最優先事項となるが、仮に収支均衡が困難となる場合は、要望や意見を踏まえて利便性を確保しながら一定便数を維持するための方策等について検討する。</p>	<p>R4.12 対応方針案の検討</p> <p>R5.1 説明会開催</p> <p>R5.4 現行での運行継続</p> <p>～R6.3</p> <p>※奈良交通株の申し入れによる協議時期 R6.4以降の運行について、R6.2までを目途に協議</p>

NO	路線名	要望や意見（まとめ）等	対応方針（案）	今後のスケジュール（案）
4	高の原高山線	<p>■関西文化学術研究都市高山地区立地施設等連絡協議会から、市宛て要望書提出（10月25日付）</p> <p><内容> 関西文化学術研究都市は、国内外の諸都市等との連携を確保するための交通基盤の確保は必要不可欠であり、国、県、市の計画等にも、バス交通について路線網の充実を図ることが明記されており、京都方面・首都圏とのアクセス確保、さらなる公共交通の利便性向上を望む。また、新たな企業転入に伴う新規利用が予定されており、高の原や登美ヶ丘方面からのアクセスがなくなることは、県北部の発展及び関西文化学術研究都市の相互連絡に重大な影響が生じる恐れがある。</p> <p>■12月1日、奈良県地域交通改善協議会の地域別部会が開催され、高の原高山線については、経費削減に向け関係者間で協議することとなった。（次回は1月以降に開催予定）</p> <p>■その他意見要望 1件</p>	<p>・奈良交通からの申し入れのとおり、令和5年10月から再編案を実施する。</p> <p>※今回、奈良交通(株)から利便性を可能な限り確保した収支改善案として、路線を高山サイエンスタウン～学研奈良登美ヶ丘駅間に短縮し、学研奈良登美ヶ丘駅～高の原駅間は既存の路線を利用する新たな再編案が提示されたことから、この案について関係者間で最終的な調整を行う。（学研奈良登美ヶ丘駅での乗り換えが必要となるが現行の便数を維持）</p>	<p>R4.12 対応方針案の検討 R5.1 説明会開催 R5.1 奈良県地域交通改善協議会 R5.10～ 新たな再編案で運行</p> <p>※奈良交通(株)の申し入れによる運行時期 R5.10以降の運行</p>
5	富雄庄田線	<p>■傍示自治会外7自治会から市長、協議会会長宛て要望書提出（10月14日付）</p> <p><内容> 住民への説明会の開催、もしくは他の方法による十分な情報周知と意見集約の実施、また、その結果をふまえて協議会での協議</p> <p>■12月1日、奈良県地域交通改善協議会の地域別部会が開催され、富雄庄田線については、再編時期の延期等について協議中であるとの報告を行った。（次回は1月以降に開催予定）</p> <p>■アンケート調査による自由意見 322件</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃止するなら代替手段（コミバス等）を考えてほしい（再掲） ・免許返納しているから困る、今後免許返納したら困る（再掲） ・減便してもいいから残してほしい（再掲） ・買い物、通院するのに困る（再掲） <p>■その他意見 2件</p>	<p>・現行の運行を一定期間継続する。その間、路線の収支均衡を目指すこととし、利用促進に取り組むとともに、並行して利用状況を確認しながら収支改善案について検討する。</p> <p>※収支均衡に必要な1便当たりごとの利用者数 27.0人/便（現行15.1人/便）</p> <p>・検討に当たっては、収支均衡に向けた具体策の検討が最優先事項となるが、仮に収支均衡が困難となる場合は、同区間は代替手段がなく、廃止されれば広範囲で公共交通空白地が発生することから代替手段案（路線補助、コミバス等の直営、スクールバス等）について検討する。</p>	<p>R4.12 対応方針案の検討 R5.1 説明会開催 R5.4 現行での運行の継続 ～R7.9</p> <p>※奈良交通(株)の申し入れによる協議時期 R7.10以降の運行について、R6.12まで目途に協議</p>